

【分科会記録】第 8 分科会

（参加人数 27人）

分科会テーマ	学校図書館運営の実際（学習センター機能） 学びを支える図書館②
司会	氏名（所属）勝山 宏子（新潟県立三条高等学校）
記録	氏名（所属）平沢 恵美子（長野県小諸高等学校）

1 発表の概要

(1) 発表者氏名（所属）

田中 和彦（長野県上田染谷丘高等学校）

近年増えてきた推薦入試を受験する生徒や指導にあたる教員に対して、図書館がどのような支援を行ったか発表された。

「総合型・学校推薦型選抜入試」に対する職員体制を組み、司書も司書資格や司書教諭資格の取得を目指す生徒のサポートをすることもある。

支援の一つとして、過去問の資料原典や大学の先生の著作物提供のために「学術機関リポジトリデータベース」の活用をしている。また、ビブリオバトル方式の試験がある生徒にはその方法や本の選び方などのアドバイスをした。支援にあたっては、入試要項・過去問の確認、関連資料の購入を心掛けているが、集中する時期には多くの生徒への対応が必要になる。

(2) 発表者氏名（所属）

米岡 幹夫（石川県 小松大谷高等学校）

元職員から、多数（約 1700 冊）の図書寄贈の申し出があったが、古いものが多く生徒が使えそうな本はなかった。そのまま廃棄という訳にもいかず、比較的きれいな全集のみ残し、登録、貸出の手続きは行わないことにした。今回の事で、他校では寄贈本の申入れにどのように対応しているのか聞いてみたが、ほとんどの学校は処分に困る本を持ち込まれたりするので、寄贈は受け付けていないということだった。管理職や学校の状況にもよるが、ルールを考えておく必要を感じた。

(3) 発表者氏名（所属）

二瓶 紗和子（新潟県立中条高等学校）

校長が地域の絵本読み聞かせボランティアを行った事をきっかけに、生徒が近隣の小中学校を訪問し、絵本の読み聞かせを行う活動をしている。

小中学校 6 校、朝の学級活動の 10 分間。国語表現・保育選択者・図書委員などの有志を募り令和 6 年度は延べ 60 人が参加。読み聞かせ経験豊富な司書が、読み聞かせ実習を行っており絵本も充実している。生徒は、司書のアドバイスも参考に担当学年に合っ

た絵本を選び、本番まで10回は読んで話すスピードや声の大きさ、ページのめくり方を練習した。

子どもたちに好評で生徒も自信がつき自己肯定感の向上につながった。

ただ、実施には練習時間の確保や学校行事との兼ね合い、職員の引率負担などの見直しが必要であるが、生徒が地域とつながり成長していく姿を支えていきたい。

(4) 発表者氏名（所属）

小日向 智子（新潟県立三条高等学校）

グローバルとローカルを融合させたグローバル探究（G 探）に重点を置いており、1年生の G 探は本を読むことをスタート地点とした。その方法として点検読書を実施している。

10 面サイコロでテーマを選び、本を探し点検読書を行った。テーマに関連する分類番号を意識したり奥付の仕組みを理解できた。また主体的に関わる事や要点をつかむコツ、プレゼンテーションの練習にもなり、本から入る大切さを感じてくれたようだ。

2 討議の概要

- (1) 「学術機関リポジトリ」などの利用について参考になった。
- (2) 何校かの寄贈本受入状況が話された。学校毎の事情もあるので、それぞれの対応が必要だと考えられる。
- (3) 読み聞かせの指導方法で司書と司書教諭に違いはなかったかとの質問に対し、お互い自由に指導したとの回答。良い実践ではあるのだが、引率にかかる労力が大きいとの報告があった。
- (4) 点検読書を探究に入れた理由は？という質問に、文部科学省の WWL（World Wide Learning）コンソーシアム構築事業カリキュラム開発拠点校の担当教諭からと回答。
図書館に生徒が来るようにするには、教員が図書館を利用するよう声かけをするのが大事。という発言があった。